



六甲のさまざまな顔

- ★仁川・甲山からの道★ 甲山と仁川溪谷 夙川上流とごろごろ岳 仁川源流から船坂峠・蓮葉峠へ
- ★芦屋からの道★ 芦屋谷・奥池・誓林寺 鷹尾山・荒地山・芦屋谷 ロックガーデン・ロックガーデン・金鳥山・保久良神社 ロックガーデン・最高峰・有馬 ロックガーデン・最高峰・東六甲縦走路
- ★住吉からの道★ 住吉谷・最高峰から有馬へ 石切道・小川谷・蓮山峠 大月地獄谷から六甲山上へ 西山谷から記念碑台へ
- ★六甲山上★ 六甲山上めぐり 油コブシ道から六甲越え唐櫃へ アイスロードと地獄谷西尾根 裏六甲地獄谷からノースロード・記念碑台
- ★裏六甲★ 六甲山上から紅葉谷・有馬温泉へ 有馬温泉 有馬温泉から落葉山 湯櫃谷山・灰形山・落葉山から有馬へ 有馬四十八滝めぐり 船坂谷・石ノ室殿から奥池へ 蓮葉峠・麻頭谷・樹越新道から逆瀬川へ
- ★摩耶山★ 摩耶山頂と切利天上寺 摩耶山頂への道 元摩耶道・行者茶屋から天上寺・山頂へ 布引から市方面へ 布引から天狗道・摩耶山 トエンテイクロス・徳川道から摩耶別山 袖谷からシェール道 天狗塚から摩耶山・天狗道へ 地蔵谷と黒岩尾根 石楠花谷から石楠花山へ
- ★再度山★ 市方原から塩ガ原・七三峠・平野谷へ 再度山から教育植物園・森林植物園へ 菊水山から鍋蓋山・再度山へ
- ★西神戸の背山★ 鉢伏山から須磨アルプス縦走 高取山 転法輪寺から大天寺へ 大天寺から寺谷へ
- ★北神戸の山★ 三田から 千刃貯水池へ 千刃貯水池から三田へ
- ★あなたの卒業証書★ 全六甲山脈縦走 六甲の岩場めぐり
- ★歴史散歩★ 霧の生一本は六甲山の縁 有馬いで道への道 徳川道

2326-380701-4202

六甲山ハイキング



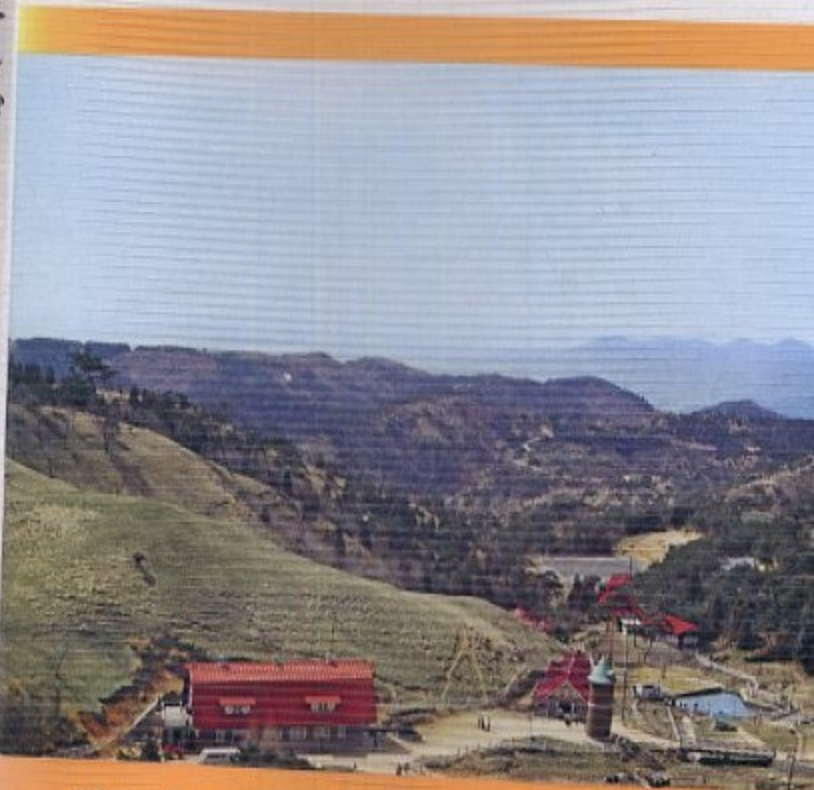
大西雄一

ガイドシリーズ

創元社

六甲山ハイキング

大西雄一 著



徹底調査により六甲の
すべてを伝える決定版

G-6 ¥630

47 全六甲山脈縦走

地図(5万) 須磨, 神戸, 大阪西北部

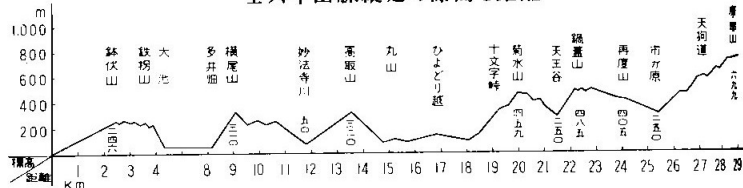
〔健脚家の耐久鍛練向き 歩く距離 55K〕

塩屋・須磨浦公園 $\frac{2.5K}{35分}$ 鉢伏山旗振茶屋 $\frac{9.5K}{2時間40分}$ 萩の寺
 $\frac{1.5K}{30分}$ 高取山頂 $\frac{3.5K}{40分}$ 神電鶴越駅 $\frac{3K}{1時間}$ 菊水山頂 $\frac{2.5K}{50分}$ 鍋蓋山頂
 $\frac{1.5K}{20分}$ 再度山大竜寺 $\frac{1.5K}{15分}$ 市ガ原 $\frac{3K}{1時間半}$ 摩耶山頂 $\frac{6K}{1時間10分}$ 西六
 甲記念碑台 $\frac{6K}{1時間10分}$ 最高峰一軒茶屋 $\frac{1.2K}{15分}$ 鳥居茶屋 $\frac{0.3K}{5分}$ 縦走
 路分岐点 $\frac{1K}{15分}$ 水無山 $\frac{2K}{30分}$ 船坂峠 $\frac{7K}{1時間50分}$ 塩尾寺 $\frac{3K}{30分}$ 阪急宝
 塚駅

＜注＞ 以上は実歩行時間で845分、すなわち14時間5分である。食事回数4回、1回当たり10分として40分、その他小休止通算30分として休憩時間の計70分。合計所要時間15時間15分となる。まずこの程度が普通の健脚家の標準であろう。若干の記録実例を別表に記しておいたから参考とされたい。

六甲山の各コースについて説明をしてきたが、これでご承知いただいたように、一口に六甲といっても東は宝塚から西は塩屋、須磨に至るまで、10*ないし15*の幅をもって延々55*の長さになわって山脈が続いているので、ずいぶんと広くかつ変化にとんでいる。いずれのコースをとっても、たっぷり1日がかかりでハイキングが

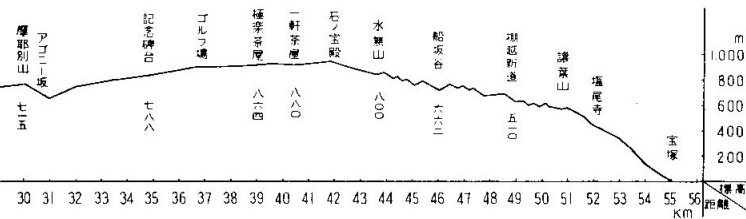
全六甲山脈縦走の標高と距離



楽しめるのである。その数多い六甲登山の総仕上げに、全六甲山脈の縦走計画を登場させよう。この塩屋～宝塚の山稜線のひとつひとつを忠実に登り下りして、これを1日のうちに踏破しようとするもので、歩く距離55*、登る高さの累計2,000*、所要時間14～16時間の強行軍である。

いかがですか、やってみませんか。これが成功できると初めて、あなたは登山家として標準点がもらえ、六甲登山の卒業証書がもらえるのです。その体力と意志力とでは、日本アルプスへ登っても大丈夫、ということになるのです。全縦走をやったよ……といえ、一応敬意を表され、山仲間にもいれてもらえるというもので、リーダー格となる資格のひとつでもあります。ではさっそく次の日曜日にも……と簡単におっしゃっても、そうは問屋が卸しません。実はなかなか大変な事業なんです。まあたいていの人は、何回かの失敗の後に、あるいは何年かの後に、やっと大願成就するのが普通です。これは大きな山行の計画や実践のそれにも似た、物心両面にわたる綿密、周到な準備が必要であり、燃える闘志と体力が要求される。それだけにまた愉快なすばらしい計画なのです。20歳台の元気な若い人でも多くは落伍するが、50歳、60歳でも楽しくやれます。ぜひ試みてください。ではこの計画の内容について気のついた点をお話ししましょう。

出発点 東の宝塚、西の塩屋、須磨のいずれから出発するかは、成功に重要な関係がある。後に述べるように長時間かかるので早朝出発の必要があるが、住居や交通機関などの都合もあるのでいずれを出発点とされてもよいが、コースの状況からすればなるべく西から出て東で終わる方が得策であろう。その理由は、東からは1. 宝



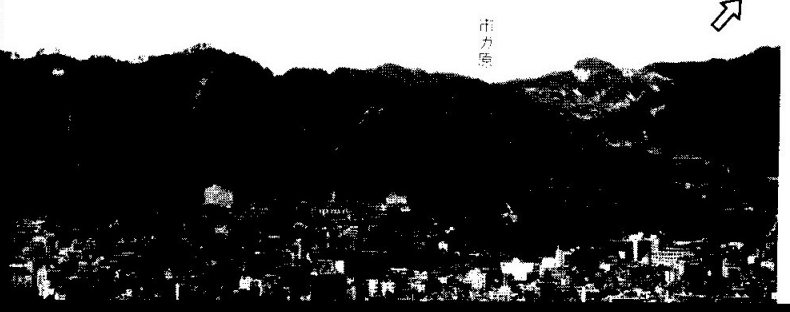


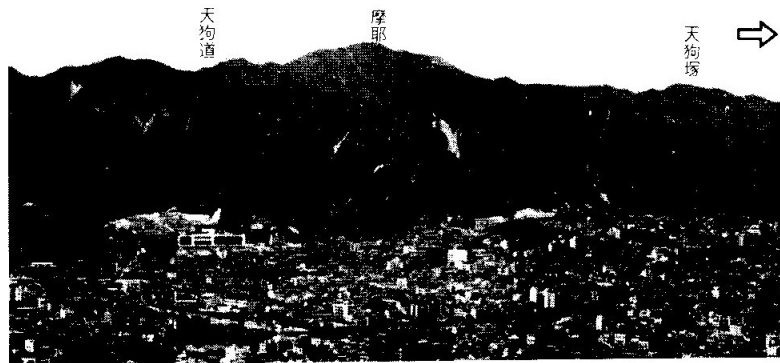
塚から最高峰までは標高差 900 位の登りで、すくなくとも 4 時間以上かかり、まず最初の行程でかなり疲れてしまうこと。2. 夜になる部分が高取山以西の、登り下りがはげしくやせ尾根やはげ山や分岐路の多い小道が多いことなどで、危険かつ迷いやすいこと。西からは、日の高いうちに変化のはげしい山稜線のコースを終了し、摩耶（まや）山あたりで夕方になるが、後の 27.4 ㎞の前半 14.4 ㎞は六甲山上部の平坦（へいたん）な道であり、後半の 13 ㎞東六甲縦走路は部分的には起伏はあるにしても、とにかく山頂から平地へ下るので、長途の疲労した身体には負担（ふたん）が軽いこと、などである。もっとも、この東六甲縦走路も小道で分岐路も多く山が深いので、迷いこんだら難物である。ことに途中で逃げこむ方法がないので、一度進みだしたら最後までがんばり通さねばならない。普通は西の塩屋または須磨から始めるのが順コースで、東の宝塚からは逆コースといわれている。以下順コースを標準に説明をする。

行程 山稜線を忠実にたどるので、登り下りがはげしくひんばんであるため、単に地図上で平面的にはかった距離と、実歩行距離



とはかなり相違があるが、実距離は少なくとも約 56 ㎞はある。これを 1 日中に踏破するためかなり強行軍となるが、天候（六甲の天気は変わりやすい）と、疲労その他の理由で途中で挫折（ざせつ）しても、安全に処理できるのもこのコースの特徴である。まず第 1 の関門は菊水山、第 2 関門は摩耶山天狗（てんぐ）道、第 3 関門は摩耶山頂、第 4 関門は六甲ケーブル駅——これまでは随時いかようにも落伍者の処理ができるが、六甲ケーブル駅以东は 20 ㎞以上の夜の山道を完遂する以外に手がないので、ここでリーダーは前途の見透しをたて、責任のある決意をしなければならぬ。中途半端に何とかなるだろう……程度では困ったことになる。たいていの場合、最初 10 人を出発したパーティも、ここで全員中止敗退するか、2 人か 3 人の強者だけで敢行し、他はケーブルかロープウェイで町へおろすか、になるのが常である。この縦走は個々の道順を充分に知りつくしては駄目で、現地でウロウロするようでは成功おぼつかない。そのためには、事前に何度かの綿密な実地踏査を積み重ねて、自信を深めて初めて実施できる。特に夜道の部分においては





なおさらである。

時期 上述のようにコースを熟知しさえすればよいかというと、それだけでは困難で、季節の選び方が重要なカギとなる。夏期は日が長く夜道がまめがれてよいように思われるが、高温多湿のため苦しく疲れるので、到底不可能である。早春か晩秋が最も適当で、できれば月夜を選びたい。

所要時間 20歳台のもっとも元気な若者で13~14時間、40歳以上では15~16時間あたりがまず標準だろう。もっとも記録作りの目的で全コースを韋駄天(いだてん)走りしたある若者の8時間35分というもあるが、これは別問題であろう。別表にくわしく記したから、参考とされたい。したがって出発は朝6時か遅くとも7時とすべきで、途中食事以外はほとんど休みなしのぶっ通して歩いて、順調にいった宝塚に着くのが夜の8時か9時ごろになるだろう。

装備 クツは底の厚い革(かわ)の登山靴がよい(ビョウ靴は重いのでピブラム底が軽くてよい)。キャラバンシューズは爪先を痛める場合があり、運動靴やこれに類する程度の履物は不適當であ

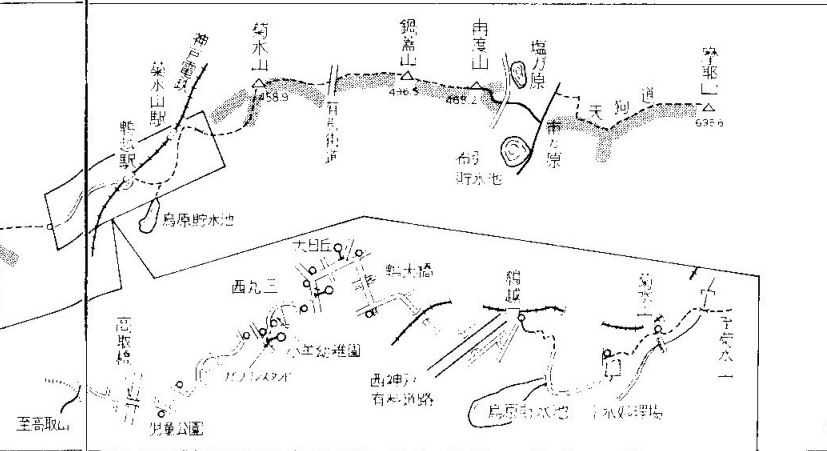
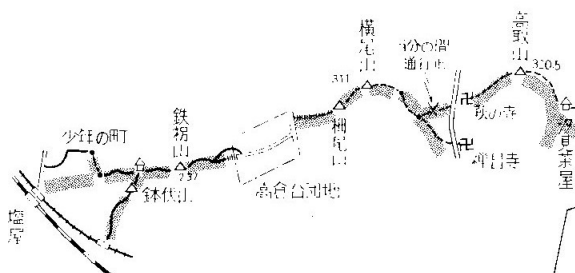


る。爪先やかかとに石鹼を塗っておくと靴ずれが防げる。なるべく装備は軽くしたほうがよいが、防寒衣や懐中電灯はぜひ必要。食糧は行動食2食程度でよく、なるべく途中の食堂などを利用したほうが荷が軽くて得策。食事は4度か5度に分け簡易に腹七分目ぐらいで行動すること。疲労の際はチョコレートやレモンなどは回復に効果があるから携行した方がよかろう。水場に乏しいところが多いのでテルモス、水筒の類は忘れぬように。以上のほか一般的な登山者としての注意を守ってもらうことはもちろんだが、要するに 1. 事前に充分の調査研究をすること。 2. パーティの質をそろえること。 3. 烈々たる闘志と聰明(そうめい)な判断とが必要であること、などの条件を忘れないように。

コースの概要とその要点 出発点の鉢伏山は、塩屋からでも須磨からでもどちらでもよいが、とにかく山頂に登り尾根通しに縦走して須磨アルプスから白川街道の妙法寺に一たんおりて、高取山を西背面から登る。頂上を下ったあたりには茶店が数軒あるから第1回の朝食をとればよい。夕見茶屋の南手から丸山へ下る。丸山から菊



六甲全縦走概念図

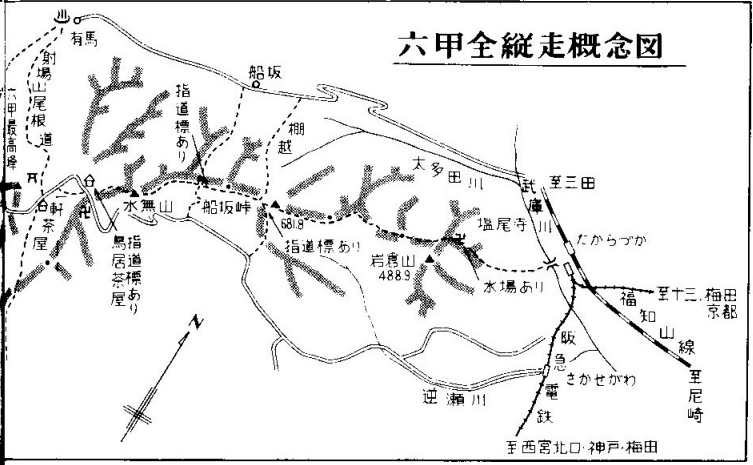
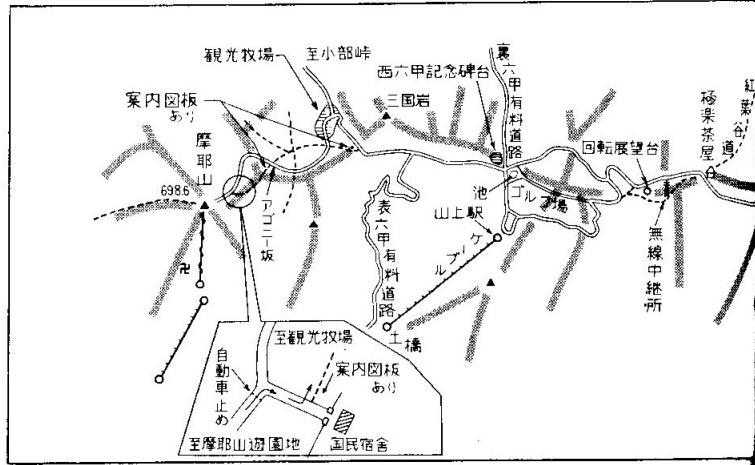


水山麓（さんろく）の鴨越（ひよどりごえ）駅または菊水山駅までは、市街のなかをかなりの距離を通過するので、この道順をあらかじめよく調査しておくことがたいせつである（添付の地図を参照）。

菊水山は最初の関門である。というのは、須磨の背山を元気にまかせて無思慮に行動している連中は、まずここでへばってしまう。屹立（きつりつ）した山頂への急峻（きゅうしゅん）な棒道を敬遠して谷筋を街道へ出、さらに高座（こうざ）から再度山（ふたたびさん）の極楽谷をつめて七三峠から再度山へぬける手があるが、これは明らかにカンニングで、これをやっては、たとえ宝塚まで行っ

ても、私は全縦走をいたしました——と大きな顔をしていえないのである。苦しくとも菊水山頂をきわめ、有馬街道へ急降下してまた直ちに鍋蓋山（なべふたやま）へ急登しなければならぬ。鍋蓋山から再度山へのパノラマ道を経て、山門から市ガ原（いちがはら）へ一気に下り、市ガ原の桜茶屋でホッと一息つく。ここで第2の食事をとるとよい。

これからが第2の関門である。テンティクロス、徳川道を経て西六甲へ通じる谷筋の道の方が楽なので、ついカンニングしたいところだが、これも絶対駄目。男の子なら、急峻な標高差500mの天



六甲全縦走概念図

狗道の登りをがんばらねばならない。たしかに、疲れた身体にはこの天狗道はつらい。この難関を突破してやっと**摩耶山頂**につけば、もう夕方である。早朝から休みなしですでに25,6*は歩いているが、これでやっと全行程の半分か、と思えば疲れがどっと出てくる。ロープウェーが目前から発着しているとすれば、たいていの方は、ここで「もうやめた」と欲得なしで敗退してしまう。これが**第3の関門**である。ここが辛抱のしどころで、「何くそ！」と頑張ること。しかし正直にいて、ここで思案する程度なら前途の見込みなしで、せいぜいがんばっても六甲ケーブルあたりで中止した方が賢明であろう。このロープウェー駅の食堂で第3の食事をとる。

摩耶別山(まやべっさん)から**アゴニー坂**をくだり、神戸市立のユースセンターの横から山稜を**西六甲**へ向かうと、ドライブウェーの舗装路に出る。ここから東六甲最高峰の鳥居茶屋までの約10*は坦々(たんたん)たる広い道なので楽だが、**西六甲の記念碑台**あたりで最後の重要な判断をしなければならない。ここが**第4の関門**である。ここからなら六甲ケーブルで市街へおりられるが、これから先は約20*の山道をいやが応でも自分の2本の足で歩かねばならない。途中で、もう駄目だ、と弱音をはいてもどうしようもないので、前進か敗退か、の決断の最後のチャンスとなる。十中八、九はここであきらめるはめとなるが、それでよいので、無思慮な空元気の強がりは禁物で、すこしでも不安があればいさぎよく思い切るべきだ。

最高峰下の一軒茶屋をすぎて**鳥居茶屋**につくころは、もう夜の幕は降り星がきらめいているだろう。第4の食事をとり、夜道の支度をする。防寒衣を着こみ、ライトをつけ、靴のひもをしめ直し、いよいよ最後のコースに出発だ。鳥居茶屋をすこし行ってから**東六甲縦走路**の細道にはいる。このコースは小さな登り下りの起伏が多く、細い山道で石ころや木の根が多く、そのうえブッシュにおおわれて昼でも歩きにくい。さらに分岐路が随所にあり、迷いこんだら大変なので、よく注意し合って行動することが必要だ。ことにパーティの隊列は乱れないように絶対に固まって動くことが肝心である。とにかく足もとに気をつけて、たがいに声をかけ合いながら行進する。

塩尾寺(えんべいじ)に到着すればもう占めたもので、あとは宝塚まで重い足を引きずること30~40分で、武庫川にかかる大橋に出る。

橋上にたつて川面に映る旅館、料亭のはなやかな灯をみ、来し方の漆黒の山容をふりかえるとき「やったぞ!!」の感激が胸にこみあげてくる。これであなたも一人前の山男になれたのだ。

ある登山者の縦走記録

地名	距離 K	20歳台 4人 10月28日			50歳前後 3人 3月23日			60歳台 40歳台 5人 2月4日		
		到着時刻 時分	実働 分	休み 分	到着時刻 時分	実働 分	休み 分	到着時刻 時分	実働 分	休み 分
塩尾		7:35			6:05			5:00		
旗振茶屋	2.5	8:06	31		8 6:40	35	15	5:30	30	5
萩の寺	9.5	11:00	166		15 10:05	190	(食)	7:47	132	5
高取山	1.5	11:45	30		15 10:40	35	30	8:17	25	15
鶴越駅	3.5	12:40	40		11:45	35	(食)			(食)
菊水山頂	3.0	13:50	70	25	12:45	60	15	10:12	100	5
鍋蓋山頂	2.5	15:00	45	(食)	14:10	70	(食)	11:10	53	
再度山大 電寺	1.5	15:20	20		14:50	40				
市ガ原	1.5	15:31	11		15:05	15	15	11:55	45	15
摩耶山頂	3.0	17:05	94	15	16:50	90	40	13:20	70	5
記念碑台	6.0	18:28	68	(食)	18:40	70	(食)	14:30	65	
一軒茶屋	6.0	19:25	57		5 19:50	70		16:00	90	25
鳥居茶屋	1.2	19:38	8		22:00	10	5			(食)
縦走路分 岐点	0.3	19:48	8		20:20	15				
水無山	1.0	19:58	10		22:35	15				
船坂峠	2.0	20:15	15		21:05	30		17:00	35	
塩尾寺	7.0	22:00	105		223:05	120		18:35	95	10
宝塚駅	3.0	22:30	28		23:40	35		19:00	15	
合計	55.0	14:55	13:26	1:29	17:35	15:40	1:45	14:00	12:35	1:25

これからの人々におねがい

六甲山はこのように、まだ日本人の間に山歩きを楽しむ習慣のなかった時代に、心ある外国の人たちの手によって、開発され、指導された。

そしてやがて市民大衆の、何ら邪心なき、ただ山を愛し自然と親しむことに喜びを感じる純粋な気持ちに護り育てられて成長してきた。六甲の登山史は、全く市民の健全な日常生活と自然との密接な愛情の結びつきの歴史である。ここに六甲の異色ある誕生と成長があり、もしそうでなかったならば、おそらく当世随所でみられるような、単なる俗悪な観光のみを目的とした遊山本位の山に墮していたかも知れない。それだけに、これからの六甲を再開発するわれわれの責任の重大さをひしひしと感じさせられる。また、観光に、あるいはハイキングにここを訪れる人々も、尊い先輩の気持ちを汲んで行動していただきたい。

特にお願したいことは、弁当殻、空カン、紙くずなどで汚染しないようにしてほしいことです。眺望や休憩によい場所ほどひどい状態です。それらはリュックにいれて持ち帰るとか、穴を掘って埋めるとかしてください。これが、山へ行くもののエチケットであり常識であります。

われわれの六甲山がいつまでも明るい、健康的な、レクリエーションの場であるようにご協力下さい。

おねがいます。

著者略歴

明治44年神戸市に生まる。

昭和7年神戸高商卒。

神戸市各局長を経て、会社役員、団体役員等。

日本山岳会会員。神戸市山岳部、稜線山岳会顧問。

「太陽と緑の道」専門委員。

六甲全山縦走市民の会会長。

六甲については50年余にわたって登っている。

著書 「絵のある随筆」

「話の歳時記」

「火の見やぐら」

六甲山ハイキング

G 6

昭和38年7月1日	第1版第1刷発行
昭和45年7月10日	第2版第1刷発行
昭和50年6月1日	第3版第1刷発行
昭和53年3月20日	第3版第4刷発行

著者 大西雄一

発行者 矢部文治

印刷所 岩岡印刷株式会社

発行所 株式会社 創元社

(〒530) 大阪市北区西天満1丁目4番2号

TEL 大阪 (363)2531 (代)

東京支店 (〒162) 東京都新宿区山吹町77

TEL 東京 (269)1051

落丁・乱丁はおとりかえいたします。(閉架製本)

2326-380701-4202